

7 本時案（第5時）

本時の目標		場や行い方に合った体の使い方をし、基本的な技をしたり発展技に取り組んだりすることができる。	
学習活動		教師の支援と評価（◎）	
		T 1	T 2
1 運動遊びをする。 ゆりかご カエルの足うち 背支持倒立 水平バランス など 2 問いとめあてを確認する。 問い （ ）があっても、回って立つことができるかな？ (児童のめあてと意識の流れの例) A 児の例 段ボール箱を越えて、 回って立ちたいな。 B 児の例 回った後、足を開いて立ちたいな。 C 児の例 横向きで回っても 立ちたいな。 3 グループで試行錯誤する中で、気付いたことを共有する。 手の着く位置をダンボール箱の向こうにしてジャンプすると越えることができたよ。 普通のマットだとおしりがついたままになってうまく立つことができなかったけど、坂道のあるマットでやるとできたよ。 マットを見続けると、足が高く上がったよ。 4 ラストアタックをして、学習のまとめとする。 5 振り返りをする。 手の着く位置を遠くになると前転が大きくなるんだね。 坂道のあるマットでやると勢いがついて、足を開いてもうまく立ち上がることもできたよ。勢いよく回って、両手を着くとうまく立てるね。 回って立つには、どこを見るかも大切なんだね。		○ 運動遊びに取り組むことで、後頭部、背中、尻、足裏の順次接触の感覚や腕支持の感覚を養うことができるようにする。また、苦手意識を持つ児童にかかわることで、つまずきを共有し本時の活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 ○ 苦手意識や恐怖心を感じている児童には、マットに置くものや場所を変えてもよいとすることで、安心して活動に取り組むことができるようにする。 ○ 前時までに出了た技や追究のための手がかりを確認することで、どの児童もめあてをもって活動に取り組むことができるようにする。 ◎ 回転系や巧技系の基本的な技を身に付けたり発展技に取り組んだりすることができる。（知識及び技能） ○ 複数のグループを集めて良い動きを称揚したり広げたりしながら、本時の問いを再確認することで、児童が観点をもって活動を工夫することができるようにする。 ○ 友達の動きをよく見て言葉かけができているグループを称揚することで、友達と一緒に活動する良さを広めることができるようにする。 ◎ めあてを見付け、その解決のために活動の場を選んだり友達の真似をしたりしている。（思考力・判断力・表現力等） ○ 友達の真似をするように促すことで、技が広がったり友達のつまずきに気づいたりすることができるようにする。 ○ 本時の学習で行った技の中から選び、ラストアタックで試してみることで、本時の自分の伸びを実感できるようにする。音楽を合図として流すことで、まとめとなる技を考えたり、考えた児童から順に試したりすることができるようにする。 ○ 追究の手がかりを基に学習の振り返りをするすることで、次時の学習に生かすことができるようにする。 ○ 次時の学習内容を伝えることで、児童の活動意欲が高まるようにする。	